

和田宿～下諏訪宿間歩き

その 2 2015.11.13 (金)

此処までは緩やかな登り坂の連続だったが、ここからは下り一方になる。下諏訪側は足場が悪くなると書かれていたが、私は登山をするせいか全く感じないし、歩き易い道が続く。水飲み場・石小屋跡を通過して西餅屋立場跡を過ぎると日本橋から53番目の西餅屋一里塚に着く。

案内図が



石小屋跡



案内板が的確に設置されている



案内板



しばらく餅屋川に沿って歩くがイワナが気になって時々沢を覗く。歩道の無い国道歩きが1.7KM続くようなので上り線の登坂車線側を歩く事にする。和田側の歩道の無い国道歩きでは右側の下り線側を歩いたがスピードが出ていて怖かったし、風圧で帽子が飛ばされたので。今回の歩きで一番嫌だったのは「国道歩き」だった。身の危険を感じたし、ゴミの散乱が多かった。国道歩きから解放されると「浪人塚」。元治元年(1864年)11/20にこの一帯で、水戸の浪士達千余名と松本・諏訪の連合軍千余人が戦った。この時に討死

した浪士（天狗党とも書かれていた）を葬り桜を植え墓碑が建てられた。すれ違いに水戸ナンバーの車が出て行ったが関係者だったか？ さらに下ると人家も現れて樋橋茶屋本陣跡に着く。その先には樋橋一里塚があった。

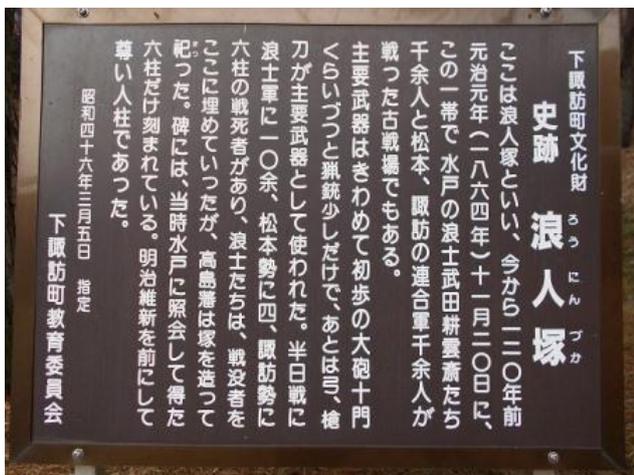
五十三里



右側通行



浪人塚



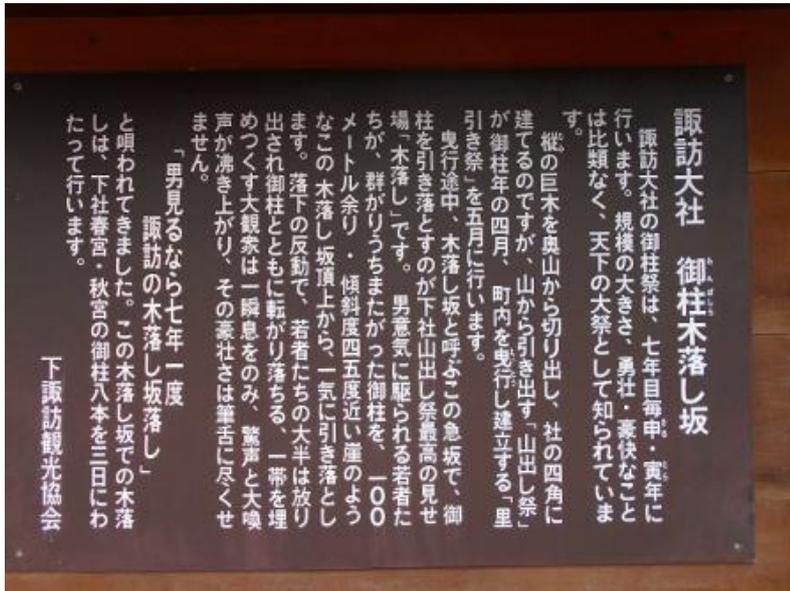
樋橋茶屋跡



江戸より 54 里である。その先からは国道歩きとなったが、3Mもある幅広の歩道が設置されているので安心して歩けた。国道から分かれて木落とし坂へ。7年に1度の奇祭「御柱祭」の最大の見せ場として知られる諏訪大社下社の木落としが行われる長さ 100M、斜度 35 度の難所で、砥川の対岸には観覧席が設置されている。此処も観光客が車で立ち寄って行く所だ。毒沢鉱泉の近くには「注連掛」（しめかけ）。御柱に注連掛を張る場所で此処までが「山出し」で約 1 か月後此処から「里曳き」が始まるとの事。諏訪湖も見えて来て人家も多くなって来た。万治の石仏は何度も見ているので省略して、春宮のみ寄って見る。慈雲寺・矢除石・下の原一里塚跡碑（五十五里）・伏見屋邸下諏訪宿本陣・問屋場跡・綿の湯・甲州

道中中山道合流点と見どころが続く。

案内板



木落とし坂で



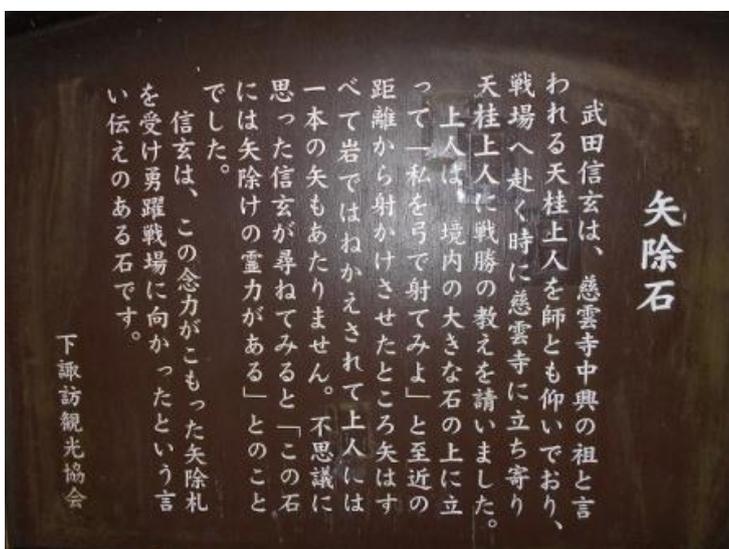
35度の斜度と観客席



秋宮と左右に御柱が



矢除石



五十五里



伏見屋邸



各民家に屋号が



本陣



甲州街道・中山道合流地。



古風です



綿の湯



一番宿場町らしい所だ。和菓子とりわけ塩羊羹で有名な「新鶴」にダメ元で寄ってみる。通常はお昼頃には売り切れてしまう塩羊羹が 15:30 近いのにまだ在庫があったので購入する。観光客にスッカリ有名になった老舗だ。県外者が後を絶たずに入店してくる。

新鶴で塩羊羹購入



秋宮に帰着



そのせいか塩羊羹の大きさから言って1800円はちと高い感じがする、それで夕方まで売れ残りが出てきたのか？秋宮はすぐ隣、車に戻り駐車場の広い「遊泉ハウス児湯」で入浴する。この辺には公衆温泉がいくつもあり、230円と安い。石鹸類は常備されていないが設備は良いので地元の人たちが沢山入浴していた。少し熱めの温泉で体が赤くなった。車に戻ったら和田古峠で見かけた人が丁度道を歩いていた。私より1時間遅れで。今日は寒さ対策も含めて珍しくトレッキングタイツを着用したせいか膝も傷まずそれほど疲労感も無く歩き通す事ができた。22KM歩く事ができた喜びと道中見物した所の感激に浸りながら車中の人になりました。それにしてもSさんは10/23に和田宿から本山宿まで48KMを11時間で、10/30にはその先本山宿から上松宿まで45KMを10時間で歩いた。今日(11/16)はその先馬籠宿まで歩いている最中だ。タフな人だ。



なお下諏訪町発行のパンフによると、甲州道中は日本橋から下諏訪を結ぶ五十三里十一町の街道で五街道（東海道・中山道・日光道中・奥州街道と並んで）の一つに数えられ、徳川幕府が外様大名らが江戸へ攻めてきた時の逃げ道として作られた。参勤交代でこの街道を通った大名は、信州の高島・高遠・飯田の三藩と甲斐の諸藩にすぎず中山道に比べれば通行者は少なかったが多くの旅人が行き交う道でした。中山道は江戸を起点とする五街道の中でも東海道とともに江戸と京都を結ぶ重要な街道であり、江戸日本橋を基点に武蔵国（埼玉県）から上野国（群馬県）を経て信濃国（長野県）に入り、さらに美濃国（岐阜県）近江国（滋賀県）から京都に至るまでの約百三十二里、六十九次でした。下諏訪宿は、甲州道中の終点にあって古くから諏訪大社の門前であり、又当時中山道で唯一温泉の湧く宿場でもあったことから大いに賑わいました。と書かれています。

赤沼健治